

2009 流通BMS 普及説明会

「流通BMS導入のポイント」

日立グループ
株式会社 日立製作所
株式会社 日立情報システムズ

1. はじめに

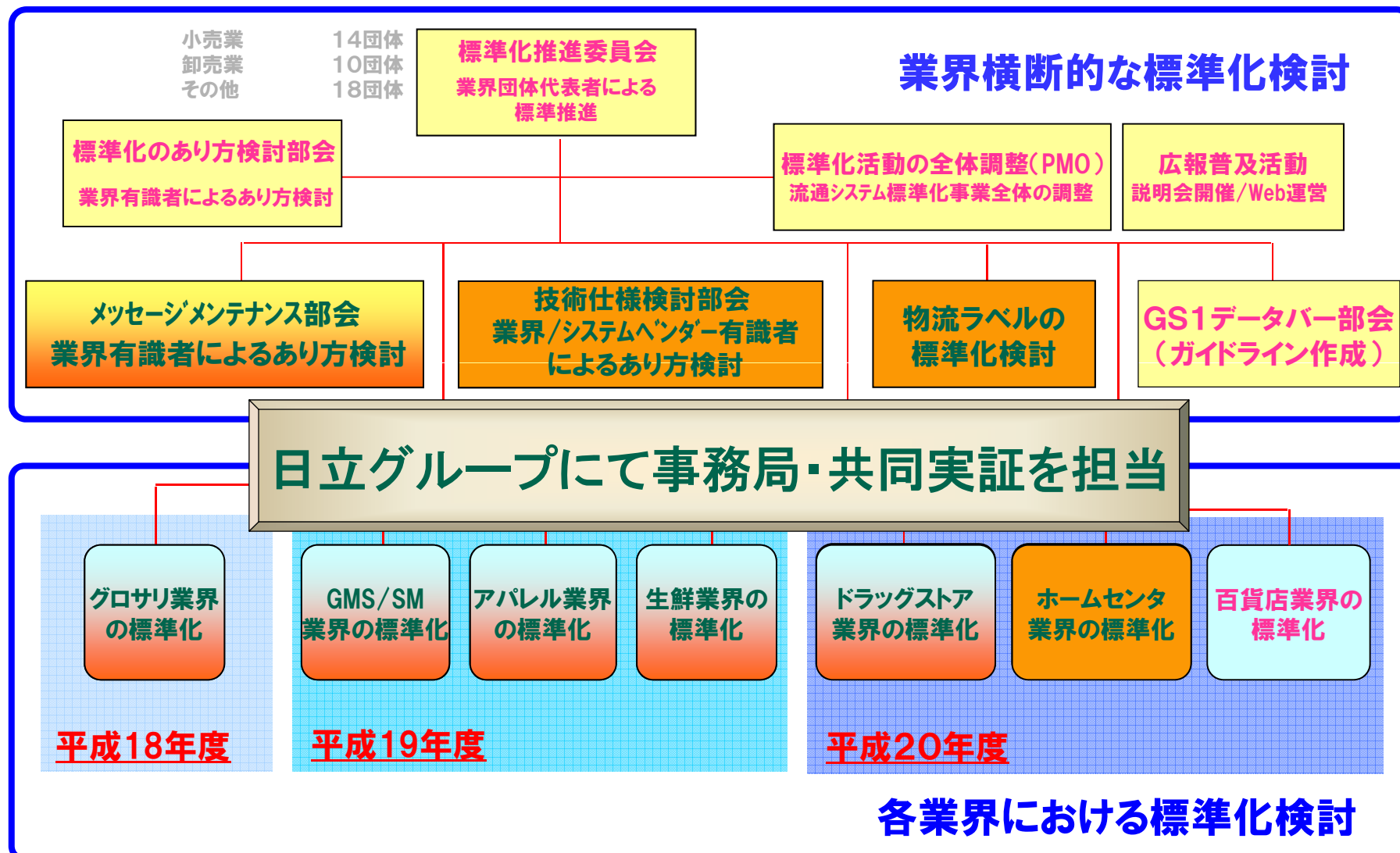
2. 流通BMS導入のポイント

3. 流通BMS導入時のその他留意点

4. 日立のEDIソリューションのご紹介

1. 流通システム標準化事業と日立の取組み

標準化事業の体制



- 流通BMSが提供しているガイドラインやツール類は以下の通りです。

標準化されている対象		対象となるガイドライン	ツール類
Eディメッセージ	取引業務プロセス (メッセージ種)	導入ガイドライン	共通確認シート
	データ項目		
	コード (GTIN、GLN)	運用ガイドライン	・マッピングシート ・メッセージ別項目一覧(※) ・コードリスト一覧
	データ表現形式 (例：XML)		
通信インフラ	通信手順 (例：ebXML、JX手順等の通信プロトコル)	XMLテクニカルガイド	XMLスキーマ(※)
	通信基盤 (インターネット TCP/IP)		
		通信プロトコル 利用ガイドライン	・通信パラメータ協定シート ・CPA雛形

(※) 【対象メッセージ】

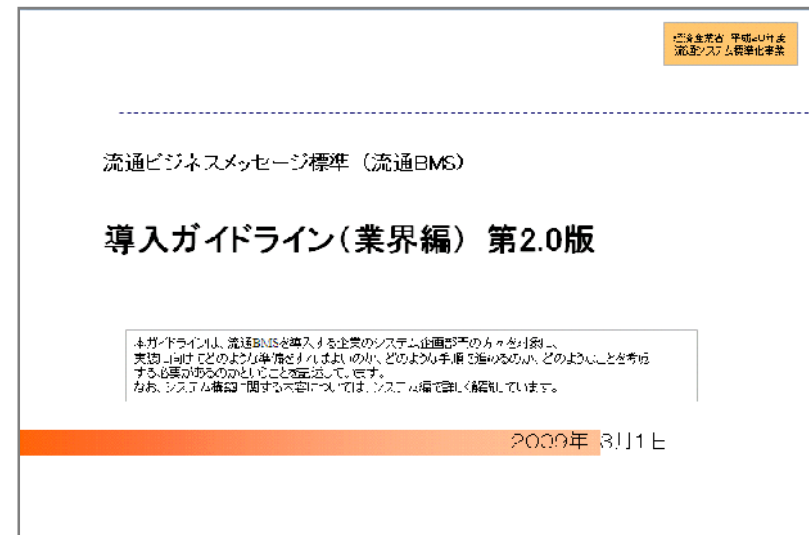
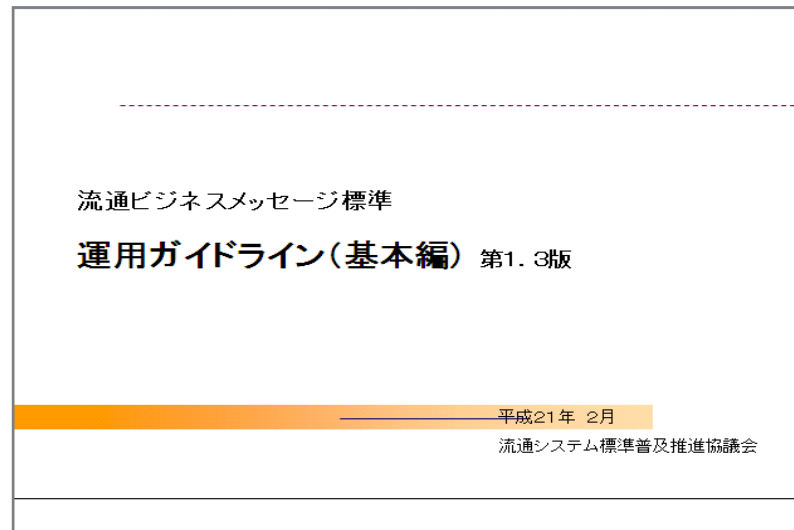
・発注 / 出荷 / 出荷梱包(紐付けあり) / 出荷梱包(紐付けなし) / 受領 / 返品 / 請求 / 支払 / 値札 /
生鮮発注 / 生鮮出荷 / 生鮮受領 / 生鮮返品 / 集計表作成データ

(※) 【XMLスキーマの配布パック】

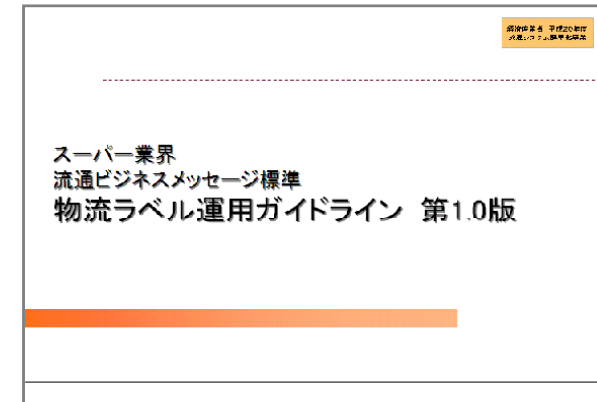
・アパレル対応パック / 生鮮メッセージパック

導入ガイドラインより抜粋

基本となるガイドライン



必要に応じたガイドライン



uVALUE ガイドラインを遵守して流通BMSを実装してください

4. メッセージ別項目一覧と引継項目一覧

メッセージ 項目番号	分類	項目名	必須/任意	タイプ	XMLデータ型 *1	桁数	発注	出荷	出荷 梱包 (紐付け あり)	出荷 梱包 (紐付け なし)	受領
1	データ整合性	送信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
2		送信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
3		受信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
4		受信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
5		バージョン	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
6		インスタンスID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
7		メッセージ種	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
8		作成日時	必須	日時	dateTime		◎	◎	◎	◎	◎
9		テスト区分ID	任意	文字	string		○	○	○	○	○
10		最終送信先ID	任意	文字	string		○	○	○	○	○
11		メッセージ識別ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎
12		送信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○
13		最終受信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○
14		直接受信者ステーションアドレス	任意	英数	Identifier	8	○	○	○	○	○
15		取引数	任意	数字	Numeric	7	○	○	○	○	○
21	登場人物：小売	支払法人コード	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎			◎
22		支払法人GLN	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎			◎
23		発注者コード	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎	◎	◎	◎
24		発注者GLN	必須	数字	Identifier	MAX13	◎	◎	◎	◎	◎
25		発注者名称	任意	文字	Text	MAX20	○	○	○	○	○
26		発注者名称カナ	任意	文字（半角カナ）	Text	MAX20	○	○	○	○	○
27		直接納品先コード	任意	数字	Identifier	MAX13	●	●	●	●	●
28		直接納品先GLN	任意	数字	Identifier	MAX13	●	●	●	●	●
29		直接納品先名称	任意	文字	Text	MAX20	○	○	○	○	○
30		直接納品先名称カナ	任意	文字（半角カナ）	Text	MAX20	○	○	○	○	○

1. はじめに

2. 流通BMS導入のポイント

3. 流通BMS導入時のその他留意点

4. 日立のEDIソリューションのご紹介

1. 流通BMSと既存EDIの違い

流通ビジネスメッセージ標準(流通BMS)を採用する事で、今までのEDIと大きく異なる部分は以下3点あります。

① 通信方法が刷新されます。

既存のEDI	既存の問題点	「流通BMS」適用のEDI
・電話回線(公衆/INS) ・回線速度(数kbps) ・JCA手順/WEB-EDI	・通信速度や通信機器に限界が近づいている ・WebEDI(小売各社個別画面からのダウンロード)が問題化	・インターネット回線 ・回線速度(数Mbps) ・ebXML手順/J手順/AS2手順

👉 インターネット利用による通信高速化、回線集約等による通信コスト削減。

② 業務モデル/データフォーマットが統一されます。

既存のEDI	既存の問題点	「流通BMS」適用のEDI
・固定長 ・各小売業独自のフォーマット形式	・小売業毎にフォーマットが異なる為、EDIプログラムをそれぞれ管理 ・発注情報を補完するマスタ情報等を卸側で作成し管理	・XMLのタグ名称を標準化しフォーマットを統一(6業務8メッセージ) ・発注情報に必要な情報を盛り込む 事でお取引先側での対応を軽減

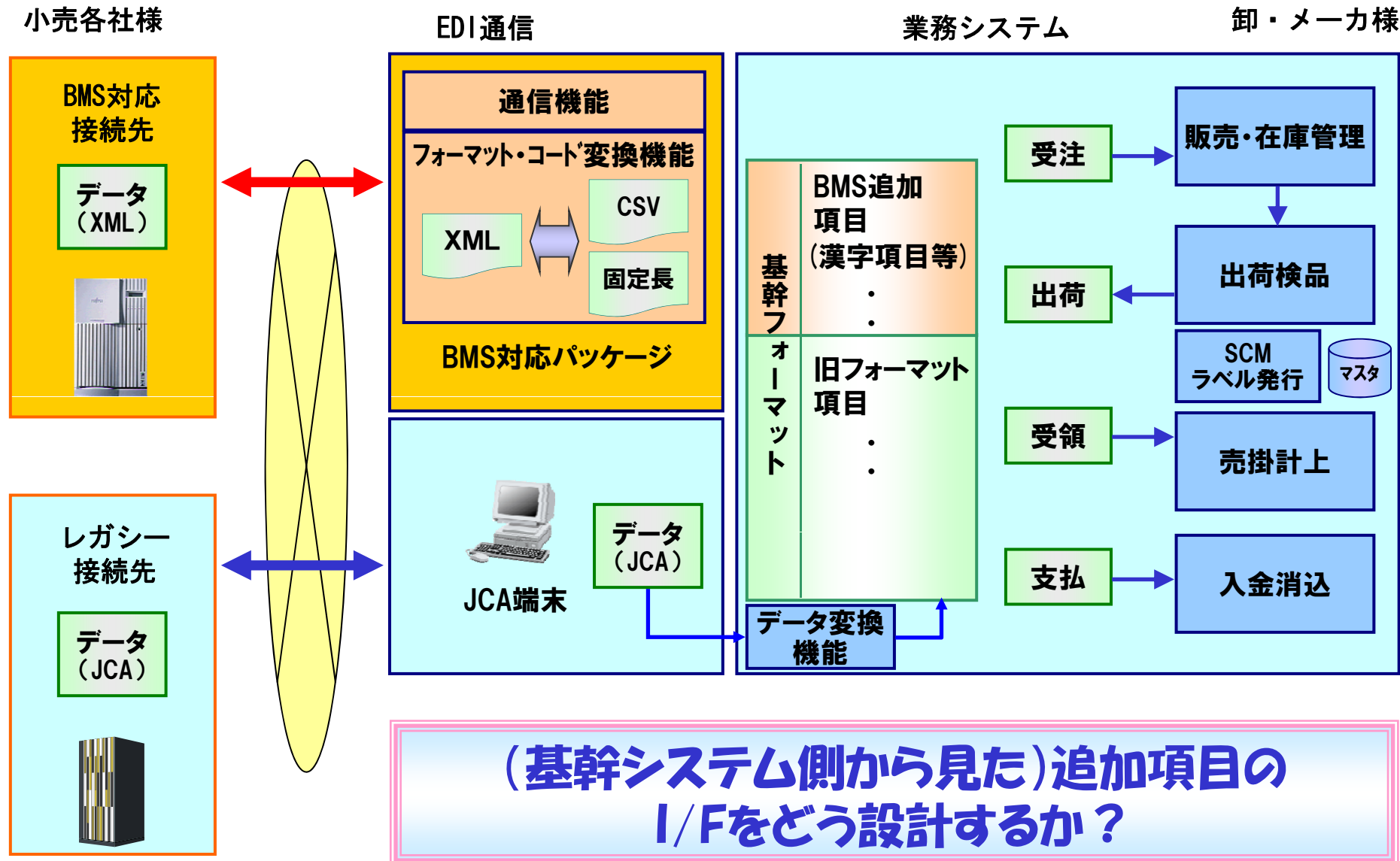
👉 標準フォーマット採用による各小売業向け個別開発コストの削減。

③ 今よりも効率の良いEDIへの取り組みが可能になります。

既存のEDI	既存の問題点	「流通BMS」適用のEDI
・伝票をベースとした業務モデル	・効率の良い業務モデルを立ち上げて、個社仕様となりお取引先様に負担を掛ける。(普及しない)	・流通BMSは伝票レスモデルを基本としている。現在、税法上の届出不要化に向けて国税等の関係省庁調整中

👉 伝票レスモデルを採用する場合も、小売側の個別仕様を削減し導入軽減が図れる。

2. 既存システムの改修と影響度



3. 流通BMS実装に向けた選択肢【小売】

導入モデル データ交換型		ASP		アウトソーシング		SI(導入)サービス			
						サーバタイプ		クライアントタイプ	
内容		・データ量に応じ従量制 ・機器は共有機を利用		・機器を委託先に預けて運用		・SIベンダーがEDIシステムを構築し納めるモデル			
特徴	運用	◎	委託先 24h/365日対応	◎	委託先 24h/365日対応	○	自社運用が必要 通常時は自動運転	△	自社運用が必要 手作業での運用
	初期投資	○	運用導入経費	△	運用導入経費 サーバ/アプリケーション購入費	○	サーバ/アプリケーション購入費 構築費	◎	クライアント/アプリケーション購入費 構築費
	ランニング	△	運用費 通信費	○	運用費 通信費	◎	保守費	◎	保守費
備考		・自由なカスタマイズは難しい。 ・データ量が多い場合は割高 (アウトソーシングの方がお得)		・専用サーバの為カスタマイズも自由に可能。 ・機器構成に応じ定額制		・自動運転の為、導入後の手間はほとんど掛からない。		・初期投資が安価。 ・手作業で運用 ・データ量が多い場合は向かない	

Web型BMS

小規模卸様向けに既にWeb-EDIを実装している企業様は、上記データ交換型BMSと合わせてWeb型BMSの実装が必要

4. サーバー／クライアントタイプの選択肢

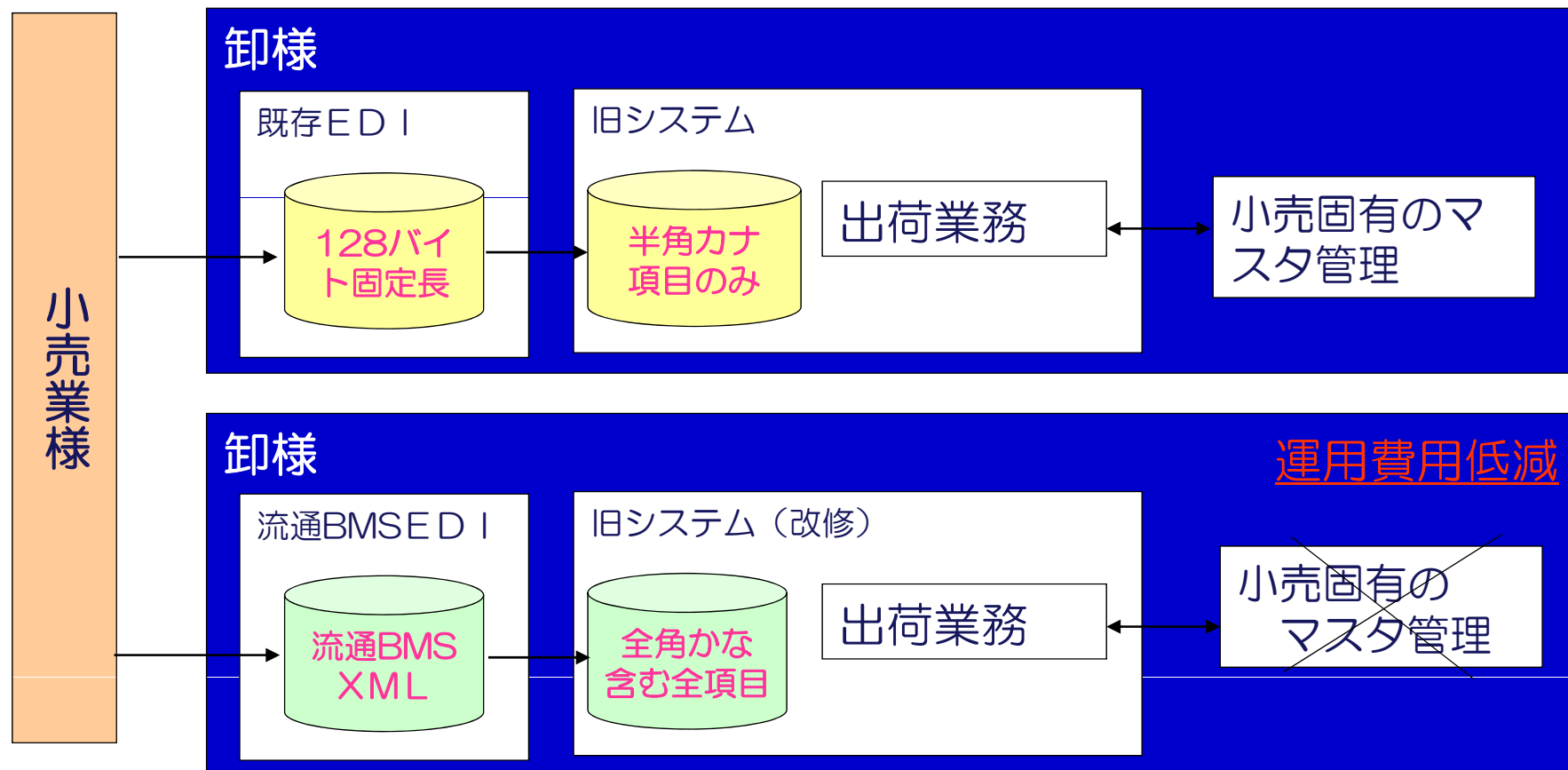


新EDIを導入する上で、クライアントタイプとサーバタイプで何が異なるの？

	クライアントタイプ(JX手順)	サーバタイプ(ebXML/AS2)
ハード環境	パソコン	サーバー
通信環境	インターネットに接続できれば良い	固定IPアドレス DNS設定の変更
導入ソフト	・JX手順通信ソフト ・EDIソフト(メッセージ変換含む)	・ebXML/AS2通信ソフト ・EDIソフト(メッセージ変換含む)
通信方式	・SSL通信 (相手先のCA証明書を入手後パソコンに設定。) ・ID/パスワードでの認証方式	・SSL通信 ・証明書の申請/サーバ設定 ・CPAファイルのサーバ設定 (相手先とのCPAファイルをサーバに設定。)
データ取得方式	PULL型	PUSH型
1メッセージのデータ量 制限	10MB程度	32bit/OS・・・100MB程度(多重度低) 64bit/OS・・・数百MB(多重度高)

5. 流通BMSデータ取込みにおけるポイント

流通BMSの標準項目を活用する事で、発注メッセージより「全角かな」情報をストレートにつなぐ事が可能になります。この為、例えば今までラベル表示等で必要となった、個々の小売様固有のマスタ管理が不用になります。



5. 流通BMSデータ取込みにおけるポイント

参考：物流ラベル印字仕様例(ユニー殿)



	印字項目	桁数	備考
①	納品センター略称	6	平和日雑TC
②	店舗コード	4	別冊「ユニ-株式会社物流センター各種一覧表(SCMラベル印字用店舗名称一覧)」参照
③	店舗名称	6	
④	カテゴリコード	2	別冊「ユニ-株式会社物流センター各種一覧表(納品カテゴリ一覧)」参照
⑤	カテゴリ名称	2	



	印字項目	桁数	備考
①	納品センター略称	6	「直接納品先名称」
②	店舗コード	4	「最終納品先コード」
③	店舗名称	6	「最終納品先名称」
④	カテゴリコード	2	「陳列場所コード」下2桁
⑤	カテゴリ名称	2	「陳列場所名称」

効果(漢字情報の伝送)

- ・マスタ管理作業の削減
- ・固定処理の減少

2. 流通システムBMS導入のポイント

6. 導入時の既存システム影響度調査

HITACHI
Inspire the Next

マッピングシートサンプル

※使用桁数…実際にデータセットされる桁数									
番号	分類	名寄せ後項目名	名寄せ後項目名	名寄せ後項目名	必須/任意	タイプ	桁数	注	引継項目
SBDH									
0	データ整合性	テスト区分	StandardBusinessDocumentHeader>BusinessScope>Scope	必須	数字				
2	データ整合性	メッセージ種	StandardBusinessDocumentHeader>DocumentIdentification>Type	必須	英数				
3	データ整合性	データ作成日	StandardBusinessDocumentHeader>DocumentIdentification>CreationDateAndTime	必須	数字		8	O	F
4	データ整合性	データ作成時刻	StandardBusinessDocumentHeader>DocumentIdentification>CreationDateAndTime	必須	数字		6	O	F
8	伝送人物：小売	データ送元	StandardBusinessDocumentHeader>Sender>Identifier	必須	英数		8	O	F
48	伝送人物：VAN会社	直接送元	StandardBusinessDocumentHeader>BusinessScope	必須	英数		8	O	F
送受信ヘッダ									
5	データ整合性	取引件数	message>numberOfTradingDocuments	任意	数字		7	O	F
32	伝送人物：箱/メーカーデータ送元(顧客)	最終送元	message>ultimateReceiver	必須	英数		8	O	F
<支払企業>									
11	伝送人物：小売	支払法人コード		必須	数字		MAX13	O	DH
12	伝送人物：小売	支払法人GLN		必須	数字		MAX13	O	DH
<発注者>									
14	伝送人物：小売	発注者コード		必須	数字		MAX13	O	DH
15	伝送人物：小売	発注者GLN		必須	数字		MAX13	O	DH
16	伝送人物：小売	発注者名称		任意	文字		MAX20	O	DH
17	伝送人物：小売	発注者名称カナ		任意	文字(半角カナ)		MAX20	O	DH
<取引>									
85	番号	取引番号(発注・返品)		必須	数字		MAX10	O	DH
86	番号	取引付属番号		任意	数字		MAX10	O	DH
<直接納品先>									
18	伝送人物：小売	直接納品先コード		任意	数字		MAX13	O	DH
19	伝送人物：小売	直接納品先GLN		任意	数字		MAX13	O	DH
20	伝送人物：小売	直接納品先名称		任意	文字		MAX20	O	DH

サンプル

使用桁数

利用有無

現行の項目名

新規の項目利用方法

現行の項目利用方法

導入ガイドラインより抜粋

uVALUE

Copyright© 2009 Hitachi Ltd. All rights reserved

6. 導入時の既存システム影響度調査

マッピングシート(抜粋:ユニー殿出荷伝票)

番号	名寄せ後項目名	必須/任意	出荷伝票	引継項目	コードリスト
	<取引先>				
38	取引先コード	必須	○	発注	
39	取引先GLN	必須	○	発注	
40	取引先名称				
41	取引先名称カナ				
42	枝番				
43	出荷先コード				
	<物流関連指示>				
46	出荷場所GLN				
47	入荷管理用メーカーコード				
89	センター納品書番号				
124	納品経路	任意	○	発注	○
125	便No	任意	○	発注	○
126	通過在庫区分	任意	○	発注	○
127	納品区分	任意		発注	○

ポイント

- ・現行項目との突合せ
- ・新規項目の確認と業務影響度分析
- ・発注引継ぎ項目の確認
- ・コード変換の確認

利用有無	現行の項目名	サンプル	※使用桁数
例:○	例:伝票番号	例:123456	
○	取引先コード	051477	6桁
○	—	0	1桁
			MAX20桁
			MAX20桁
			2桁
			1桁
			MAX13桁
			10桁
○	納品区分、仕入区分より変換	02 (センター納品)	2桁
○	便情報	01	2桁
○	在庫区分、仕入区分、納品区分より変換	01 (TC)	2桁
○	センター納品方法仕入区分より変換	02 (店別納品)	2桁

6. 導入時の既存システム影響度調査

コード変換表(抜粋:ユニー殿資料)

1. 次世代EDIメッセージコード変換表
(ユニー独自コード⇒次世代標準コード)

変換元(ユニー独自コード)						変換先(次世代標準コード)	
発注区分						#121 発注区分	
05	店舗補充発注					02	店舗(追加)発注
06	本部発注					06	初回発注
08	特売					01	本部(計画)発注
上記以外						02	店舗(追加)発注
仕入区分		EDI区分		データ種別(※注)		#122 出荷データ有無区分	
1	買取	0	伝票あり(ASNなし)	—		02	出荷データ作成不要
1	買取	1	伝票レス(ASNあり)	—		01	出荷データ作成要
0	預かり	0	伝票あり(ASNなし)	—		02	出荷データ作成不要
0	預かり	1	伝票レス(ASNあり)	01,15		02	出荷データ作成不要
0	預かり	1	伝票レス(ASNあり)	21~23		01	出荷データ作成要
上記以外						NULL(任意のため)	
納品区分		仕入区分		データ種別(※注)		#124 納品経路	
0	店直	—		—		01	店舗直納
1	センター納品	1	買取	—		02	センター納品
1	センター納品	0	預かり	01,15		03	小売預り在庫より出荷
1	センター納品	0	預かり	21~23		02	センター納品
上記以外						00 無指定	
納品区分		在庫区分		仕入区分		データ種別(※注)	
0	店直	—		—		00	無指定
1	センター納品	1	通過型	1	買取	01	TC
1	センター納品	0	在庫型	1	買取	03	買取DC
1	センター納品	0	在庫型	0	預かり	02	預りDC
1	センター納品	0	在庫型	0	預かり	02	預りDC
上記以外						00 無指定	
仕入区分		センター納品方法		データ種別(※注)		#127 納品区分	
1	買取	0	店別仕分け納品	—		02	店別納品
1	買取	1	単品総量納品	—		01	総量納品
1	買取	2	カート店別仕分け納品	—		02	店別納品
0	預かり	1	単品総量納品	01,15		03	直接納品なし
0	預かり	1	単品総量納品	21~23		01	総量納品
上記以外						00 無指定	

1. はじめに
2. 流通BMS導入のポイント
- 3. 流通BMS導入時のその他留意点**
4. 日立のEDIソリューションのご紹介

1. 流通BMSの特徴

流通BMSメッセージ(XML形式)の特徴

必須項目と任意項目	・ 必須項目が存在しない場合、正常通信が不可（XMLバリデーションチェックでエラー発生） ・ 任意項目の使用可否は<u>相対小売毎に異なる</u> <table><tr><th>BMS項目名</th><th>BMS</th><th>ユニ様</th><th>現行との比較</th></tr><tr><td>最終納品先コード</td><td>必須</td><td>利用</td><td>現行：店舗コード</td></tr><tr><td>最終納品先GLN</td><td>必須</td><td>利用</td><td>現行なし</td></tr><tr><td>最終納品先名称</td><td>任意</td><td>利用</td><td>現行なし</td></tr><tr><td>最終納品先名称カナ</td><td>任意</td><td>利用</td><td>現行：店舗名称</td></tr></table>	BMS項目名	BMS	ユニ様	現行との比較	最終納品先コード	必須	利用	現行：店舗コード	最終納品先GLN	必須	利用	現行なし	最終納品先名称	任意	利用	現行なし	最終納品先名称カナ	任意	利用	現行：店舗名称
BMS項目名	BMS	ユニ様	現行との比較																		
最終納品先コード	必須	利用	現行：店舗コード																		
最終納品先GLN	必須	利用	現行なし																		
最終納品先名称	任意	利用	現行なし																		
最終納品先名称カナ	任意	利用	現行：店舗名称																		
出荷データの 発注引継ぎ項目	・ BMSでは発注～出荷～受領と項目を持ちまわる（上記<u>最終納品先情報</u>は全て引継ぎ項目） ※特に、<u>出荷データ生成での検討が重要</u>																				

2. 業務運用関連【小売側】

項目	内容	留意点
メッセージの選択	どのメッセージを採用したら良いか分からない	・流通BMSは複数メッセージを組合せて使うケースもあります、運用ガイドラインを参考に既存の自社EDI種別をマッピングします
移行	先日付発注データの移行に注意が必要	・切替時の運用を相対間で充分確認を取る ・並行稼働中のXMLデータの切替運用の十分なテストが重要
テスト環境	流通BMSに移行する際の接続・平行テスト環境はどうする	・テスト環境を別環境にした場合は接続テストとしては再度行う必要がある、本番環境でテストができるよう構築時に設計する

2. 業務運用関連【卸／メーカー側】

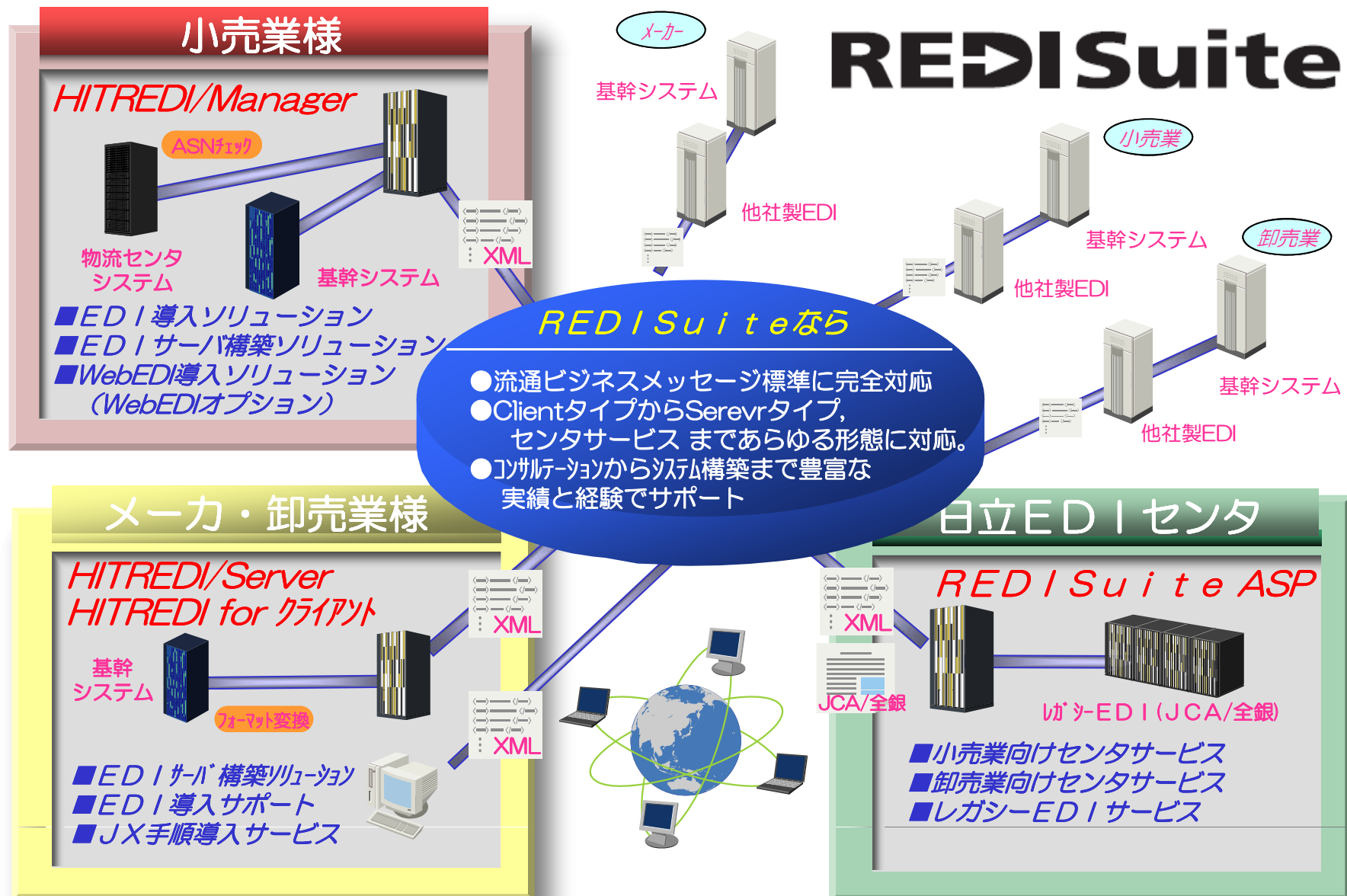
項目	内容	留意点
任意項目の扱い	小売企業様毎に任意項目が異なる	・卸／メーカー企業は自社システムに取込む際には注意が必要 ・自社で使わない項目でも全項目取込めば容易に拡大が可能
ゼロ件データ	JCA手順と違いゼロ件データセットはできない	・ ・障害時の連絡体制がある 相対間調整事項
GLNの運用	GLNを持っていないが	・最低一つ(通信で使用)のGLNは必要取得は流通システム開発センターで安価に入手可能

3. インフラ関連

項目	内容	留意点
ネットワーク環境 (インターネット)	ネットワーク、セキュリティの環境設定作業に苦勞した (実際のご意見)	・新規構築などの際には、サーバー型モデルは専門技術者が必要
電子証明書	セキュリティ確保のための電子証明書申請に時間が掛かった (実際のご意見)	・発行に一定の時間が掛かるため、余裕をもった申請が必要 ・一定期間で切替作業が発生する、相対間で同期した切替作業が必要
禁則文字	文字化けの可能性がある文字が禁則文字として指定されている(“ー”(ダッシュ記号)など)	・流通BMS指定の禁則文字は事前にマスタ内文字などの変換(置換え)が必要
データ量	日々のデータより請求・支払いなど一定期間蓄積するデータ量に注意	・データ量に応じて圧縮する (詳細は導入ガイドライン参照)

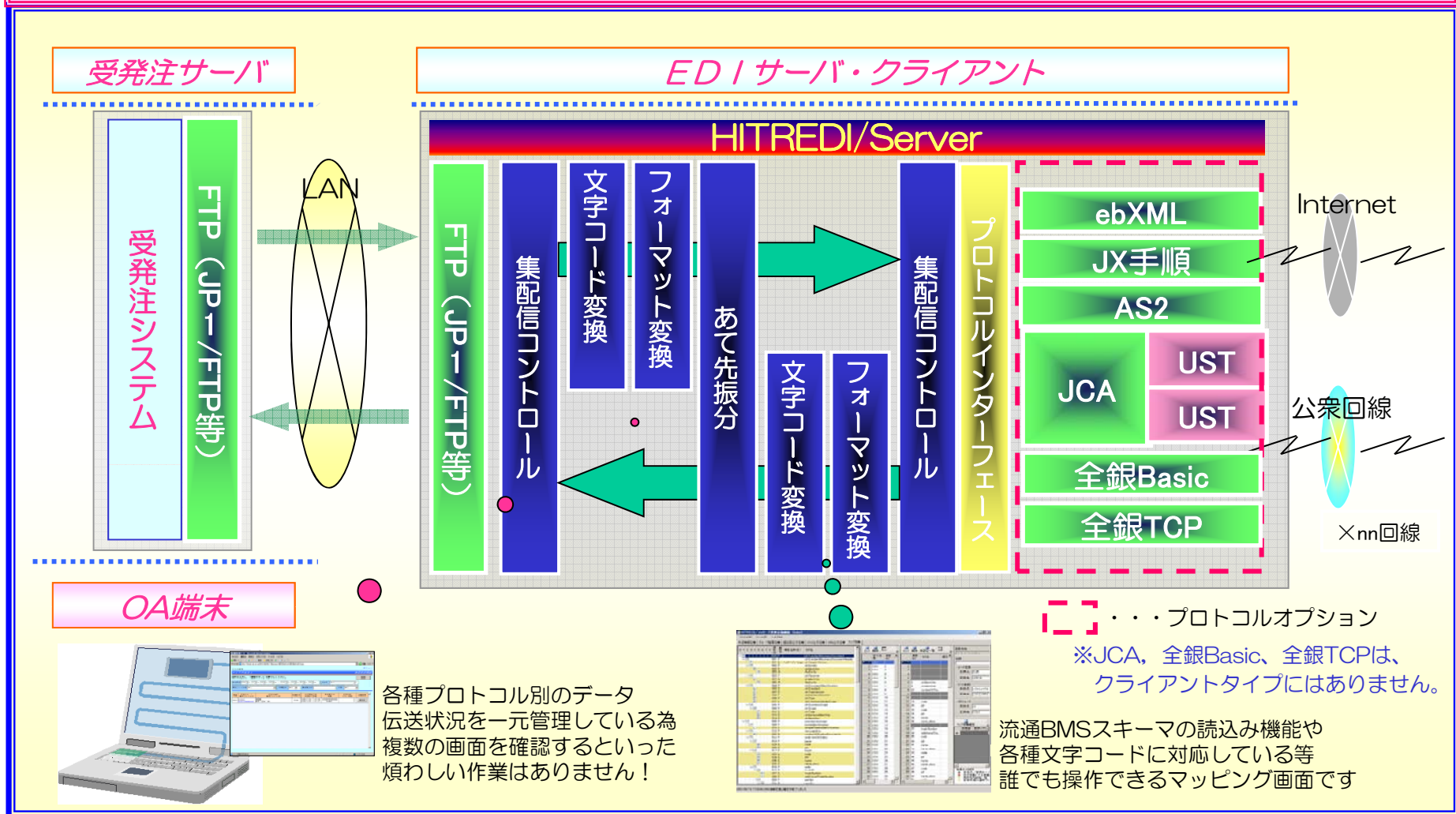
1. はじめに
2. 流通BMS導入のポイント
3. 流通BMS導入時のその他留意点
- 4. 日立のEDIソリューションのご紹介**

1. REDISuiteのご紹介



2. HITREDIのご紹介

HITREDIの機能には、各種プロトコル（ebXML、JX、AS2、JCA、全銀Basic、全銀TCP）が用意されており、現状のお客様のニーズや将来的なEDI構想まで幅広く柔軟に対応できます。



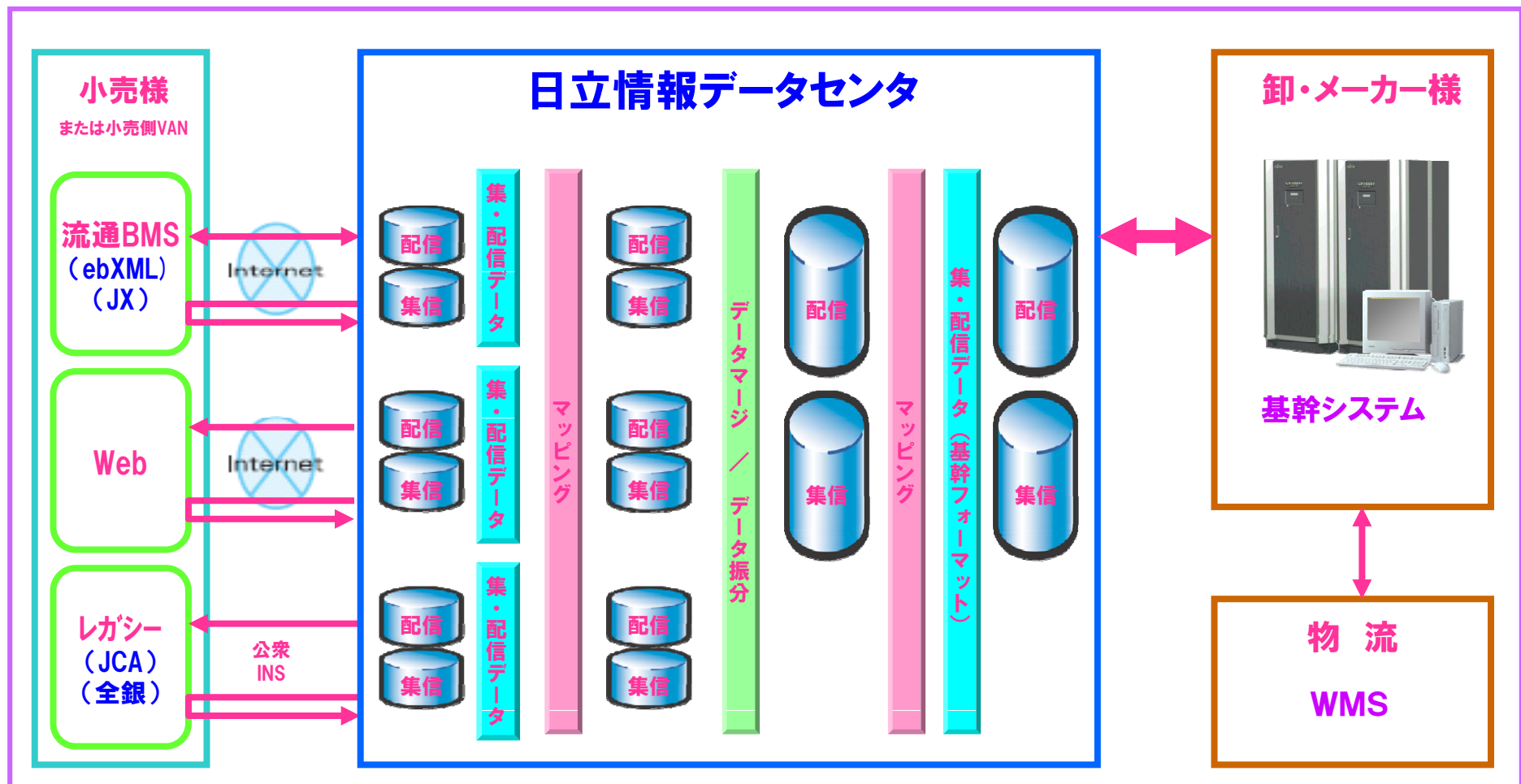
3. REDISuite-ASPのご紹介

全体システムイメージ

日立情報EDIソリューションサービス「レディースイート」

REDISuite

- 各社フォーマット変換や集配信管理を行います。
- 小売様の様々なEDI(流通BMS、Web、レガシー)に対応致します。



ご清聴ありがとうございました。

2009 流通BMS 普及説明会

「流通BMS導入のポイント」

日立グループ

株式会社 日立製作所

株式会社 日立情報システムズ

HITACHI
Inspire the Next